

アメリカ公共サービス デジタル化の背景



18F



カタパルトスープレックス

ちょっと宣伝 | カタパルトスープレックスとは

海外のイノベーションに関する情報やツールを日本で広げるプロジェクトです。ブログマガジン『[カタパルトスープレックス](#)』と無償のイノベーションツールボックス『[カタパルトスープレックスデザイン](#)』とイノベーションサービスデザインの『[カタパルトスープレックスラボ](#)』を展開しています。

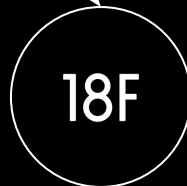
**CATAPULT
SUPLEX**

アメリカの公共サービスのイノベーションを進めた 二つの力と三つの組織

二つの力

① Code for Americaや米国市民権・移民業務局のEIRのような民間と公共部門をつなぐ努力の成功

② デジタル系公共プロジェクトの失敗



HealthCare.gov

三つの組織

1) Presidential Innovation Fellows

2) 18F

3) The U.S. Digital Service

2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018

成功と失敗から生まれた二つの力

成功

- 民間(特にシリコンバレー)で成功しているやり方を公共サービスでも取り入れたい
 - Code for Americaによる公共サービスと新しいやり方の結びつきの成功事例
 - 米国市民権・移民業務局などによる客員起業制度 (Entrepreneur in Residence)の成功



失敗

- オバマケアの HealthCare.govの技術的な失敗
 - モダンな技術やアプローチの採用の必要性を痛感
 - 同じ失敗は絶対にしない。失敗、ダメ。ゼッタイ。

日本もマイナンバーの失敗から学んでほしいなー

HealthCare.gov

成功と失敗から生まれた三つの組織

1) Presidential Innovation Fellows



所属部門: 一般調達局 (General Services Administration)
ゴール : 民間部門と公共部門のベストな組み合わせ
特徴: 公共のスタートアップアクセラレーター

主な実績

- [MyUSA](#)
- [OpenFDA](#)
- [GreenButton](#)

2) 18F



所属部門: 一般調達局 (General Services Administration)
ゴール : 官公庁へのスキルトランスファー
特徴: 開発者とデザイナーの集団

主な実績

- [analytics.usa.gov](#)
- [cloud.gov](#)
- [US Web Design System](#)

3) The U.S. Digital Service



所属部門: 大統領行政府 (Executive Office of the President of the United States)
ゴール: 大統領の名においてHealthCare.govのような失敗の回避
特徴: コンサルタントの集団

主な実績

- [Digital Services Playbook](#)
- [Vets.gov](#)

三つの組織の共通点

- スタートアップのようなイノベーションを公共部門でも実現する
 - デザイン思考
 - リーンスタートアップ
 - アジャイル
 - 人間中心アプローチ
- ちなみに、オバマ政権時代に生まれたものだけど、トランプ政権でも生き延びている

え？じゃあ、何が違うの？

モデルが違います

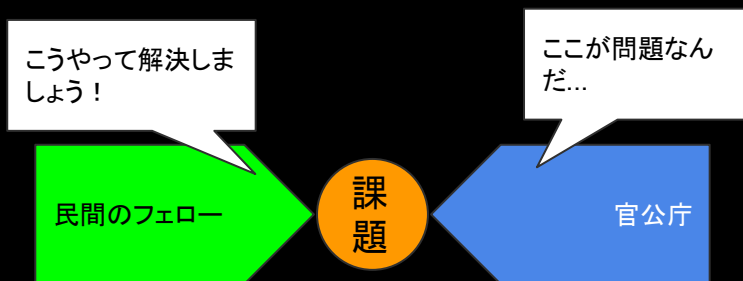
Presidential Innovation Fellows



- [Code for America](#)がモデル
- [Presidential Management Fellows](#)というフェロープログラムの前例がある
- アメリカ合衆国国土安全保障省など連邦政府機関や州政府レベルでの起業家の短期採用プログラム (Entrepreneurs in Residents) の成功が設立の背景

<https://presidentialinnovationfellows.gov/>

モデル

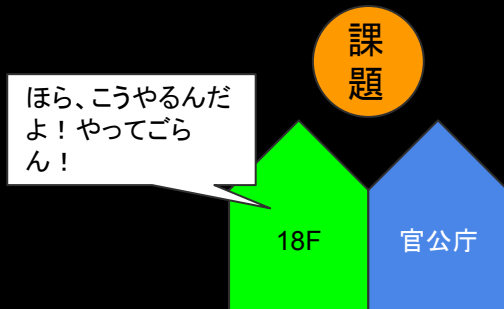


12ヶ月を一単位(コーホート)としたプログラム。その年の課題が発表され、解決に取り組む民間の専門家を募集する。徴用された個人は連邦政府職員(18Fと同じ一般調達局の Technology Transformation Services に所属)となり一年間フェローとして務める。給料は年間で134,789米ドル(日本円で約1500万円)。徴用期間中にフェローは官公庁とともに課題に取り組む。民間のスタートアップアクセラレーターにも似てるし、企業のオープンイノベーションにも近い。

- Presidential Innovation Fellows (PIF) からスピンアウトする形で立ち上げ
- メンバーもPIF卒業生が多く、PIFのプロジェクトを引き継ぐ場合もある
- イギリスのGDSにモデルとしては近い
- 名前は所属部門である一般調達局の住所 "1800 F Street"から

<https://18f.gsa.gov/>

モデル



モデルとしては民間企業における社内イノベーションラボに近い。主体は官公庁で、18Fはデジタルの専門家としてデザイン思考、アジャイル、リーンスタートアップといったモダンな手法の人間中心アプローチを官公庁の担当部門ができるようにすることを目指す。最初は並走して、徐々にプロジェクトを官公庁にハンドオーバーする。そのやり方は [Partnership Principles](#) という文書で明文化されている。18Fはコストリカバリーモデルで運営されていて、パートナーである各省庁からコストを徴収する。その [契約](#) と [支払い](#) はオンラインで行われる。

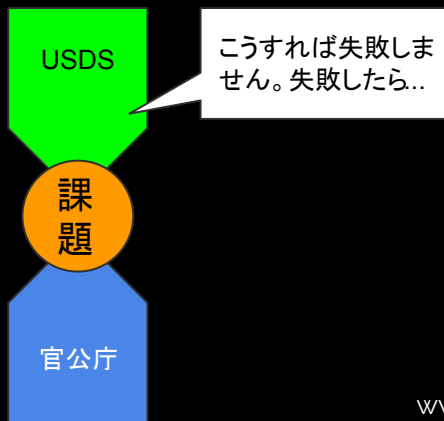
The U.S Digital Service



- HealthCare.govの失敗が繰り返されないように設立された部門
- コンサルタントとして官公庁が失敗しないようにアドバイス
- 場合によっては強権発動する(らしい)失敗、ダメ。ゼッタイ。
- 18Fと一緒にプロジェクトも多い

<https://www.usds.gov/>

モデル



18Fがボトムアップだとしたら The U.S. Digital Service (USDS) はトップダウン。ホワイトハウスですから。18Fがデザイナーや開発者の集まりなら、USDSは上流コンサルタントの集まり。サーバントリーダーシップのアプローチを取る。PIFや18Fと比べると表にあまり出てこないのだからわかりにくい。

CATAPULT SUPLEX

www.catapultsuplex.com